

特別の教科 道徳

【ICTを活用するポイント】児童生徒が全員参加で議論するための土台をつくるのがポイントです。

子供の視点から

- ・可視化された思考ツールから、自分の立ち位置や学級集団の考え方等を見つめ直す。
- ・ねらいに含まれる道徳的価値に関わるアンケートに取り組み、授業前後の気持ちや考え方の変化を再認識する。



教材の視点から

- ・黒板の座標軸にネームプレートを貼る場合と比べ、時間が短縮され、先に貼った児童の考えに影響されずに、自分の考えを表現できる。
- ・端末習熟の個人差を埋め、言葉で表現することの難しい「内面」を、色や形、場所で容易に示すことができる。



考え
議論する
道徳

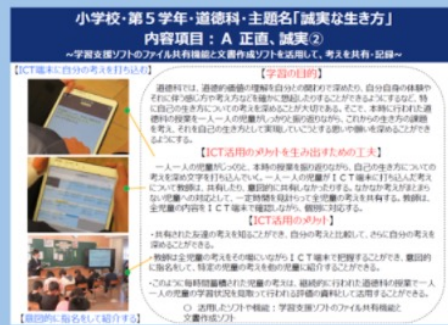
問題解決の過程の視点から

- ・アンケートに答えることで自分の考えを確かなものとし、自他の異同に注目して学習を進めることができる。
- ・自分の考えをICT端末の座標軸に書き込み、共有することによって他者の考えを視覚的に知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。



StuDX Style (文部科学省より)

https://www.mext.go.jp/content/20210609-mxt_kyoiku01-000015517_js2.pdf



実践報告 小学校4学年【C-13公平, 公正, 社会正義】

主題：分け隔てなく行動すること 教材「ちょっとまってよ」(光村図書)

アップデートしよう

①児童生徒の多様な感じ方や考え方を把握するための活用

②話し合いなどにおいて、児童生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考えられるための活用

③児童生徒の感じ方や考え方の変容とその理由を把握し、児童生徒への自覚を促す活用 ※本時

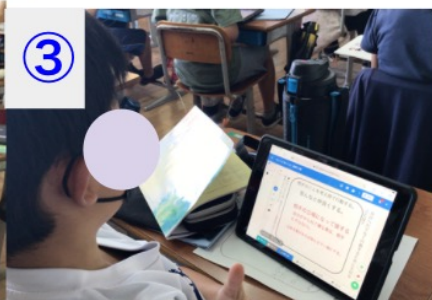
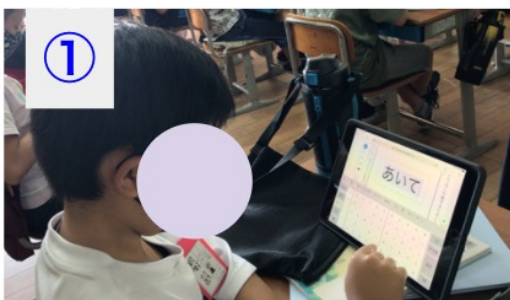
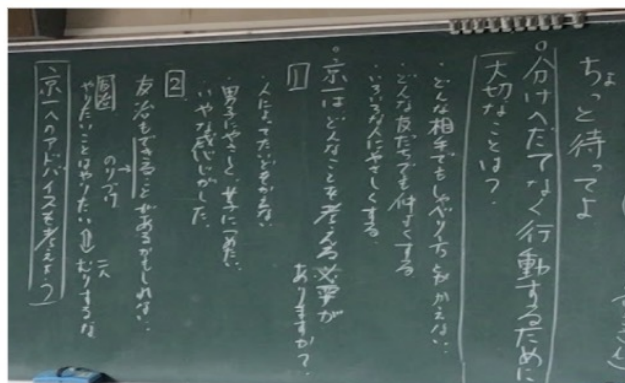
使用したアプリ

- ・ファイル共有機能

本時のねらい

2つの場面の京一の行動から道徳的問題点について話し合い、京一へのアドバイスを考えることを通して、誰に対しても公正・公平に接しようとする実践意欲と態度を養う。

導入	ファイル共有	問題意識を共有し、学習の見通しをもつ ※現在の感じ方や考え方を把握する 写真①	★導入では、本時扱う内容項目について児童がどう感じているか、教師は端末から児童全員の考えを把握していた。 ★発達段階を考慮し、展開では意図に応じて端末を閉じ、教師の問い返しなどの工夫から考えが深まるようにした。
展開		教材を活用して、物事を広い視野から多面的・多角的に考える ※クラス全体で話し合ったりペアによる意見交流をしたりする 写真②	
終末	ファイル共有	自らの考えの変容を自覚し、これからの思い、明日への課題などについて考える ※展開後の感じ方や考え方を導入時と比較する 写真③	



児童生徒の姿から

導入で「分け隔てなく行動するために大切なこと」について、今考えていることを一人一人端末に入力しました。考えが定まらない児童も、ファイル共有機能で友の考えを参考にすることで、自分の考えをもつことができました。(写真①)

展開では、「相手や状況によって態度を変えてしまう京一の姿」について全員で話し合いました。児童は率直な感想を自分の言葉で語り、先に考えた自己の「分け隔てなく行動するために大切なこと」について見返したり、教師からの問い返しや友との考えとの異同に注目したりして、道徳的価値を「価値理解」「人間理解」「他者理解」から捉え、多面的・多角的に考えていきました。(写真②)

そして、京一の姿を客観的に捉えながら、公正、公平であることのよさや、どのような対応をするとよいのかをじっくりと考え、京一へのアドバイスとしてワークシートに書きました。そしてその後、ペアとの対話で、考えの交流をしました。

終末では、改めて「分け隔てなく行動するために大切なこと」について考えたことを端末に入力しました。(写真③)相手の立場に立って考えることや、悲しい思いをしている仲間がいないか考えること、自分の思いだけで決めつけないことなど、学習を通して深められた自分の考えが書き込まれました。

授業者の先生から

本時は、児童が今までの道徳科の授業や日常生活の経験などから「公平、公正、社会正義」について考えていることを、ファイル共有機能を活用して把握し、指名や問い返し、机間指導などにつなげました。また、話し合うときは端末を閉じ、友との対話など直接的な営みの中で考えを発展できるようにしました。

この事例のポイント

- 導入では、端末の活用によってクラス全員が本時の主題について自己を見つめる動機付けがなされています。また、児童生徒の実態をアンケート機能を用いて把握し、傾向を全体で共有しながら本時の主題に関わる問題意識を高めていくこともできます。
- 教師は、必要な情報をクラウドで共有し把握し、児童の率直な感想やつぶやきをつなげていきます。また、自己と向き合う場面では時間をとってワークシートに記入したりする等、端末の利活用については、場面に応じて意図を明確にしています。